
ルパン三世 ~ RED FAKER ~

小桐坂

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ルパン三世〜RED FAKER〜

【Nコード】

N4778Z

【作者名】

小桐坂

【あらすじ】

「おはよう、ルパン三世」

ある日、男にそう告げられ目を覚ました。

俺は一体誰だ？ 俺は一体何者だ？

記憶を失った俺は、男の言われるがままにルパン三世になるのか？
でも、俺はルパン三世じゃない。

ルパン三世になりかわろうとする偽物の末路。

それは死か？ それとも
……。

プロローグ（前書き）

ルパン三世の二次創作です。

主人公はオリジナルキャラクターになっています。

プロローグ

プロローグ

「おはよう、ルパン三世」

声が出た。意識が覚醒して、初めて耳にしたのは、しゃがれた低い声。

誰だ？

うつすらと瞼を開ければ、眩しいライトがあたった。咄嗟に目をきつく閉じる。

「目を開けたまえ、ルパン三世」

ルパン？

「そつだよ、君は、ルパン三世だ」

「違う」

俺がルパン三世？ そんな寝言は寝て言え。いや、今の俺は夢を見ているのかもしれない。そつだ。そつに決まっている。

ぎゅつと瞼を閉じる。決して開けないぞ、と堅く手を握りしめる。

「残念ながら、これは夢じゃない」

額に冷たい硬い感触。ぞわりと肌が粟立った。

「君に用意された選択肢は二つ。一つは、目を開けて私の言葉にイエスと頷くこと。もう一つは」

ガチリ。嫌な音だ。映画でよく聞く拳銃の撃鉄が起きる音にそっくりだ。

「このまま、永遠に夢を見ることだ」

額にあたっている硬いものが、ぐりぐりとそのまま穴を開けるように強く押される。あまりの痛さに目を開けてしまった。

舌打ちしたい。でも、死にたくはない。

「おはよう、ルパン三世」

「……」

奥歯を噛みしめる。相手は、イエスという言葉を待っている。そう言わなければ、俺は、殺される。

「返事は？」

くそ。俺が何したっていうんだ。

「……ああ」

「君の名前は？」

「……ルパン三世」

「その通りだ！」

男は哄笑する。天井にあるライト。手術台に横たわる俺。眩しくて、目が痛い。

どうして俺はここにいるんだろう。

どうして俺はルパン三世だと頷くように言われているんだろう。

どうしてこの男は笑っているんだろう。

「さあ、ルパン。服を用意している。着替えたまえ」

「……」

もう、何も考えたくもない。

用意されている服を見る。

黄色いネクタイ。黒いワイシャツに、黒いスラックス。ぴかぴかに磨かれた茶色の革靴に、炎のような、血のような、赤いジャケツト。

いつかのテレビで見た、かの有名なルパン三世が着ていた服と同じものだ。

前髪にかかる髪がうざい。まさか、この服に着替えたなら、髪までルパン三世そっくりにセットされるのだろうか。

ぞわりと寒気がした。

「あんたは、俺に何をさせる気なんだ？」

口ひげを蓄えた上品な顔をした男は、笑みを浮かべた。モノクル越しの目は虚ろだというのに、もう一方の目は爛々としている。

「ふふつ。ルパン。君には、ルパン三世を殺して貰いたい」

この男の言葉は、荒唐無稽だ。

これ以上の会話を続けたくない。

「本物を殺せるわけがない」

「いいや、君が、本物だ」

本物。

何を言うんだ。この男は狂っている。

俺は、ルパン三世じゃない。

俺は……。

俺は？

「……あんだ、俺に、何をしたんだ……！」

思い出せない。

俺の名前。俺の誕生日、血液型、星座。俺の家族。俺の家。

うつすらと霧がかかっている。思い出せそうで、思い出せない。

このもどかしさ。心臓が痛い。どくん、どくと強く動く。

「ふふつ、ははっ、何を言っているんだね、ルパン三世」

「俺に何をしゃがった！ 答える！」

男の襟元を掴みあげる。男の目がよく見える。男がモノクルをし

ている右目。これは義眼だ。

「選ばれたのだよ、君は。ルパン三世になるために」

これは、夢だ。

夢なんだ。

どうして、目を開けたんだ。あのまま、ずっと、夢を見ていれば

よかった。

でも、死にたくなかった。死にたくなかった……。

力が抜ける。

この男は、恐ろしい。狂っている。

足を動かす。この男から離れよう。ここに居てはいけない。

「さあ、ルパン。衣装に着替えたまえ。君が、ルパンになるために」

視界に拳銃がちらつく。

死にたくないだろう？ と、銃口が囁く。

震える手で、黒のワイシャツを手に取る。羽織って、袖を通して、ボタンを留める。スラックスを履いて、ベルトを締める。

ネクタイを襟に通して、何とか結ぶ。ネクタイを結んだことがあったのか。ないんだろう。わからなくて、無茶苦茶な結び目になった。余計に泣きたくなかった。乱暴に結び目を解いて、赤いジャケットを羽織る。ネクタイはスラックスのポケットに押し込んだ。

「ネクタイの結び方は覚えなさい」

「……ああ」

「部屋に案内しよう」

拳銃を奪って、米神に弾を撃ち込めば……。

そんなこと、出来やしないけど。

みじめだな。心の中で嗤って、男のあとをついて行く。

目を閉じて、問いかける。

俺は、ルパン三世か？ いや、違う。俺は、ルパン三世じゃない。

それだけは、強く自分の中で響いた。

記憶もない状態で何を信じればいいのかわからない。けれど、これだけは自分の中で「本当」のことだ。これだけは、信じよう。これだけを信じて、生きよう。

そして、記憶を取り戻して、この男の下から逃げだしてやる。

「では、また夕食の時に」

男に案内された部屋は、簡素な造りをしていた。

ベッドに、ライトがある机、ソファ、本棚。生活感のないモデルルームのようだ。

部屋の中を探索してみれば、台所はないがトイレと風呂があった。あの男は夕食と言っていた。食事以外の時はここで過ごさせることだろうか。そう願おう。

「……え、待てよ」

独り言が多くなるのはしょうがない。少し虚しいけれど。

「これからずっと、俺はここで暮らすってことか……?」

独り言はいい。ただ、もっとうずつと虚しくなることに気付いてしまった。

「……モデルルームとか、テレビで見たことのあるルパン三世だとか、昨日の天気は覚えてるのに」

俺が何歳なのか、俺の名前だとか、俺は昨日どこで何をしていたのかとか。

「覚えてないんだな……」

本当に、ルパン三世にされるんだろうか。

長い前髪。切ったほうが良いだろう。睫毛と擦れて、目が痒い。

「切りたくないなあ……」

俺は、ルパン三世じゃないんだから。

風呂場の脱衣所に入る。大きな鏡が、俺を映す。真っ黒な髪。長い前髪はほとんど目を覆っている。何より、ルパン三世の特徴でもあるもみあげがない。

「あの男の様子だと、髪も変えられるだろうなあ」

……。

ふと、視界にかみそりが目に入った。もしも、顔を傷つけなければ用無しになるんじゃないだろうか。利き手が使い物にならないければ、お役御免になるんじゃないだろうか。

ぴたりと手が止まる。

「……俺に用意された選択肢は二つ」

ルパン三世であることを肯定するか。拒んで殺されるか。

つまり、ここでルパン三世であることを拒めば、待っているのは

死?

いや、ただの推測だ。けれど、あの男は読めない。

「それに、親に貰った体だ。傷つけちゃ……」

ふと左手首を見た。そこには、痕があった。何か鋭利な刃物です

たずたに切り裂いた痕。

「……………なにやってんの、俺」

死にたかったのか？ 俺は。

どうして？ 今の俺は、死にたくないと思っているのに。

記憶がないから？ 記憶がないから、死にたくないと思っているのか？ 本当は、死にたかった？

いや、この傷はもう痕だ。かなり前だろう。

それでも、心に引っかかる。

ズレを感じる。

今の俺と、過去の俺。

「……………」

ベッドの上に腰かける。膝を抱えて体育座りをして、考え込む。

俺のこと。男のこと。今の状況。これからどうするのか。

男が呼びに来るまでの間、時間はたっぷりとある。正直、考えたくない。けれど、手首の傷を見てしまった。

俺の中にある「死にたくない」という気持ち。ルパン三世じゃないと強く思っているのも、死にたくないっていうのと繋がっているような気がする。

俺は一体何なのか。男は一体何なのか。それがわからなきゃ、始まらない。

男は俺がなんであるのかを知っているはずだ。

ひとまず、男に従順でいよう。

左手首を強く掴む。

忘れない。一度は死のうとした俺を。そして、死にたくないと思う今の俺を。

プロローグ（後書き）

始めてしまいました……。
ぶるぶると…緊張しております…。
楽しんで頂けたでしょうか？ 彼がルパン三世と出会うのはもう少し先です。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4778z/>

ルパン三世～RED FAKER～

2011年12月16日02時49分発行